

「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験」

『パイロット実験』の進捗状況を公表(五月)

▼日本銀行は、「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験『パイロット実験』の進捗状況」(本冊、別冊)を五月に公表しました。

▼パイロット実験は、「実験用システムの構築と検証」と「C B D Cフォーラム」の二本の柱から構成されています。前者では、日本



中央銀行デジタル通貨に関する実証実験
「パイロット実験」の進捗状況(2025年5月)

日本銀行決済機構局
2025年5月

銀行が構築する実験用システムで性能試験等を行うとともに、システムに実装しない機能についても机上検討を行っています。後者では、日本銀行が事務局となり、リテール決済に関する技術や一般事業者の有する金融機関や一般事業者にご参加いただき、C B D Cエコシステム全体をカバーする幅広いテーマについて実務的な議論を行っています。

▼本報告書の本冊では、実験用システムのパートで、システム設計

上の特徴である、①プライバシーへの配慮、②送金の処理フロー、③性能への配慮・並列処理性向上策、④機能拡張性への配慮、について解説しています。フォーラムのパートでは、テーマごとに設置した七つのワーキンググループ(WG)における議論・検討の内容について、昨年度中に議論された論点を中心に紹介しています。なお、別冊では、パイロット実験を通じて得られた知見等を詳しく共有する観点から、より詳細な説明が有益と思われる項目について解説・紹介しています。

▼日本銀行では、今後も実験用システムを用いた性能試験等の検証や机上検討を進めるとともに、フォーラムとの連携を深めることで効果的・効率的に検討を進める方針です。フォーラムでは、WGごとの検討を継続するとともに、WG横断的なテーマを切り口とした議論も行っていく予定です。

▼「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験『パイロット実験』の進捗状況」は、日本銀行ホームページをご覧ください。



「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会

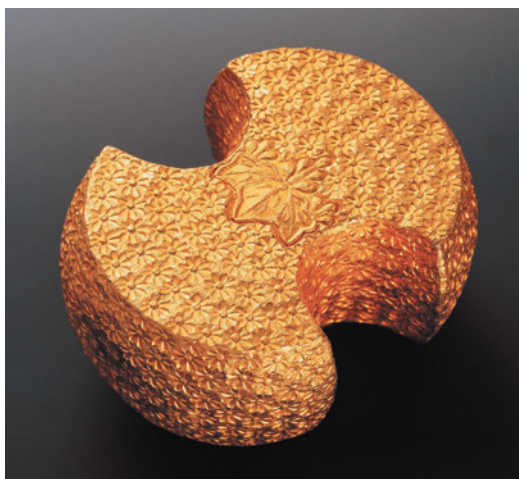
(第九回)」を開催(六月)

▼日本銀行は、「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を六月に開催しました。同協議会は、中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて、民間事業者や政府との情報共有を図るとともに、今後の進め方を協議するものです。

▼九回目となる今回の協議会では、日本銀行から、「中央銀行デジタル通貨に関する実証実験『パイロット実験』の進捗状況」のほか、C B D Cを巡る諸外国の動向などについて説明しました。続いて、財務省から、C B D Cに関する関係府省庁・日本銀行連絡協議会が五月に公表した「第2次中間整理」の内容についてご説明いただき、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼連絡協議会の説明資料や議事要旨は、日本銀行ホームページをご覧ください。

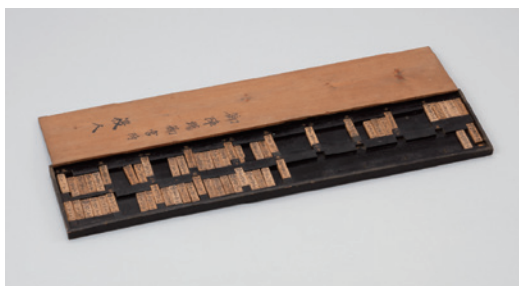




黄金の分銅「分銅金」



金貨の材料を掘る絵巻「佐渡金山之図 人」(江戸時代)



宝くじの道具「富駒」(江戸時代)

商品券・プリペイドカード
(20世紀～現代。2022年展示写真より)

金融研究所貨幣博物館 開館四〇周年・リニューアル一〇周年記念企画展 「シンカする。貨幣博物館 ——過去・現在・未来——」 開催

十月三十一日(金)～

二〇二六年二月一日(日)まで

▼日本銀行金融研究所貨幣博物館は一九八五年十一月に開館し、二〇一五年十一月にリニューアルオープンしました。今年で開館四〇周年、リニューアル一〇周年

を迎えます。

▼貨幣博物館は、お金に関する資料を収集・保存し、その調査研究により歴史的な「真価」を明らかにするとともに、日本貨幣史に関する学術的なスタンダードを示すべく展示の「深化」を図ってきました。

▼そして、リニューアル(「新化」)を経て、教育普及事業や地域社会との連携など社会的要請にも応えながら「進化」を続けています。

▼本企画展では、こうした四〇年にわたる「シンカ」の歴史をたどり、これまでの企画展などで公開した多様な所蔵資料を展示します。

▼また時代と共に変化するお金の在り方を未来に伝えていくために当館で収集・保存しているお金のガジェット(給与袋や貯金箱・通帳など)も紹介します。

【入館料】無料

【休館日】月曜日(ただし祝日は開館)、年末年始(十二月二十九日～一月四日)

【開館時間】午前九時三十分～午後四時三十分(入館は午後四時まで)

【お問い合わせ先】
金融研究所貨幣博物館
〇三―三二七七一三〇三七

※最新の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。



【所在地】東京都中央区日本橋本石町一―

【お問い合わせ先】

金融研究所貨幣博物館

〇三―三二七七一三〇三七

編集後記

■ 秋田支店、大阪支店での勤務を経て本店に戻り、今号から編集長に就任しました。

■ 「対談」では、人間国宝の片岡仁左衛門さんに高田審議委員がお話を伺いました。大阪松竹座「七月大歌舞伎」の開幕前に、道頓堀川で開催される「船乗り込み」は、天神祭の「船渡御」と共に、水都大阪の夏の風物詩となっています。今年も船上から手を振る片岡仁左衛門さんの立ち姿の美しさに、沿道の観客も魅了されたようです。江戸時代には芝居町として栄えた道頓堀。近くには国立文楽劇場もあり、皆さんも上方伝統芸能を鑑賞されてみてはいかがでしょうか。

■ 「地域の底力」で取材した男鹿市は、夏は男鹿フェスや男鹿日本海花火で熱く盛り上がりますが、厳寒の2月に真山神社境内で開催される「なまはげ柴灯まつり」も多くの観客でにぎわいます。クライマックスで、たいまつを持ったなまはげが隊列をなして雪山から降りてくる姿は幻想的です。男鹿では、農畜産業の大規模化・スマート化や県外からの移住者による起業が地域の活性化につながっており、こうした地方に若者を呼び戻す動きがさらに広がることを期待したいと思います。

■ のっけから秋田と大阪推しの編集後記になってしまいましたが、お許しください。（村國）

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。（https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm）

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ（<https://www.boj.or.jp>）をご覧ください。

にちぎん 2025年秋号
編集・発行人 村國 聡
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-1947

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

「開設八〇周年のしおり」を発行（長野事務所）

▼長野事務所は、七月十六日に開設八〇周年を迎えました。節目を迎えるにあたり、地域との関係構築をさらに深める取り組みとして、事務所八〇年の歩みを振り返る広報リーフレット「開設八〇周年のしおり」（以下、「しおり」）を発行しました。

▼「しおり」では、事務所開設の経緯から近年の取り組みまでを、事務所員が図書館で見つけ出した当時の新聞公告や地元金融機関から借り受けた古い写真などを活用しつつ、分かりやすく視覚的に表現しています。また、この間の長野事務所や長野県内の動きなどを簡潔な年表にまとめて一覧できるように工夫しており、一般の皆さまにも、興味を持ってご覧いただける内容となっています。

▼今後、地域における講演や各種会合、大学・学校の授業などの機会を捉えて、「しおり」を活用しつつ、金融広報、金融経済教育の推進に取り組んでいきます。

▼「しおり」は、長野事務所ホームページにも掲載しております。ぜひご覧ください。

